



2024

今日も元気に舞台タツ、芸も上タツ、笑い配タツ、お客沸きタツ、ギャラも調タツ、生活成りタツ、こたつの上で鍋の湯気タツ、これで私の顔もタツ、おまけに人気も昇り龍!!



今年も五代目
文枝一門を
よろこぶら
御願ひ致します



いちもん新聞

五代目桂文枝

発行
いちもん新聞編集部
〒630-0246 生駒市西松ヶ丘8-8
「いこまのたぬき小屋」内
(有)文福らくごプロモーション
TEL・FAX 0743-73-6663
桂 文福
ホームページ 文福部屋
YouTube「たぬき小屋から福もろ亭」
令和6年1月 第125号



3月12日(火)
五代目文枝に思いを寄せて



六代文枝と文鹿



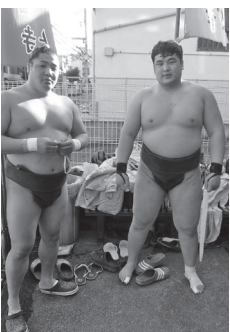
繁昌亭にて
花の女性に囲まれて



一門の集い



繁昌亭 昼席 ぼんぼ娘 初のトリ



阿武松部屋の米びつ
勇磨関と阿武剋



近日公開の映画「西成金魚」で、
極道の親分役ぴったり?の文福



繁昌亭のにぎわい



芸協の師匠方と東西交流

〇一門のついで

昨年十二月十三日。この日は、上方落語界や、京都の花柳界、任侠道の世界などは「ことはじめ」といって、鏡餅を師匠宅に届けて、一年のお礼を言っただけを頂く儀式の日であるが、だんだんそういう風習も変わって来た感がある。まして我が一門は親父（五代目文枝）は、もう故人なので、鏡もちを届ける事がなくなった。かつては、床の間に「三枝一門」「きん枝一門」「文珍一門」「文福一門」などの鏡餅に墨の字で書かれたのしをつけて飾り、門弟（孫弟子も含む）一人一人の名前をつけた小餅がもうせんの上で並び、何とも言えぬ、風情があった。なつかしい思い出。しかし、お世話になったおかみさんを囲む日になると、師匠亡き後も毎年、「ことはじめ」に集まっていたが、コロナ禍で、三年とぎれていた。昨年はずいぶん前に五代目直系が集まり、93才になる「君枝お母ちゃん」を囲んで、師匠が大好きだった町中華の50数年の歴史をほこる、西成の玉出「八宝亭」さんでの宴がくりひろげられ、筆頭弟子、六代文枝の乾杯でもりあがった。親父の口ぐせ「今年も、一門兄弟仲良くせよ」これからも守り続ける事だろう。席上四代目文枝からうれいニユース。一門から二人、今年の秋、大名跡襲名の事が発表されたが、くわしくは次号で!!

〇文珍芸歴55年独演会

日本一、多く高座に上がる囃

家といわれる文珍。なんばグラウンド花月に毎月出演、そして全国各地での独演会にひっぱりだこ。50周年では東京の国立劇場で20日間連続の独演会を催し、五代目文枝ゆずりの古典をじっくり聴かせる一方、時代をリードした奇想天外な新作落語との二刀流で満場のお客様をうならせる。55周年では、一月だけでも愛媛、神奈川、兵庫、新潟等の独演会。ますます元気な丹波笹山の文珍に乞うご期待。

〇文枝の夢見る二人会

昨秋、天満天神繁昌亭で、六代文枝の「夢見る二人会」ファイナルが行なわれた。今まで十回、「この人は!!」と六代文枝が気になる囃家を指名しての二人会。なんと、文福一門の二番弟子の文鹿が、招かれた。文枝のブログには「我が愛弟子だった今は亡き、三金と同期だった文鹿君、私も若い頃、とんがっていたし、彼も以て

いる。そして、すこぶる評判がいい。ユニークな創作落語をあまり出して、いる彼を男にしたい」うれいお言葉。当日筆者も、二階席のすみっこで見ていた。二人のトークの時六代文枝が「なんで上方落語協会やめたん?」「ヒェ、文鹿は「とにかく組織にしばらくはのほろいすねん」「そうやけど、客席に君の名前入りのTシャツ着た方、ぎょうさん居てはるで」。それも組織とちがうん?」文鹿は、元ボクサーだけに、常に自分を追いこむファイターの様で、持論を展開。しかし「縦社会」においての今までの非礼をわび、文

枝も大きな心でうけとめ、なごやかなムードに:「ところで君の師匠は来てへんの?」「先ほど、喫茶ケルンさんのテレビで九州場所の相撲(千秋楽)を必死で見てましたけどね:」「は、いい私、ここにおりませう」すると文枝が、二階席に向って「文福さ、この文鹿についてどう思う?」「は、は、はい、私と文鹿とかけまして、ちょっとせいたくいな列車の旅ととく。その心は「ええシテイ(師弟)やなあ」ギヤペ。ああとで、ご、ご、ごあいさつに楽屋へ行きませう」「いや、もう来んでええわ」ドカーンと大爆笑。

その後六代文枝大ファンのいわば、完全アウエーの中文鹿は、独自のネタで文鹿ワールド全開!!度胸あるなあ。私なら、あ、わわわとなるなあと感じながら二階席で、感激にひたっていた。

〇三月十二日「五代目文枝の日」

毎年、三月十二日は、五代目文枝の命日で、十三回忌までは、一門総出で繁昌亭にて「追善の会」を催して来たが、それ以降は五代目直系各自が独演会を開いて師匠に思いをはせている。昨年の文昇に続いて、今年も十五番弟子の枝曾丸が担当。自身の和歌山のおばちゃんに扮しての「和歌山弁落語」。師匠の十八番の「悟気の独楽」そして、五代目文枝作の「熊野詣」の三席。開口一番に、五代目の実の孫小きん(四代小文枝門下)ゲストは、女道楽の内海英華師。さらに紀州熊野地方へ向かう特急の情景がうかぶ新作落語「く

ろしお一号」を文鹿が演じる。今年も天國繁昌亭の楽屋で、おやじが「おおきに」と喜んで下さる事だろう。

文鹿のCLOMBHU

六代桂文枝師匠の人間のデカさを見せ付けられた「夢見る二人会」。これが最終回となり今後は一人会で作落語500作を目指されるといふ。年齢を超えても誰も真似のできないバイタリティ。対談で呼び込まれた瞬間自分の顔が引きつっていることを感じつつ空気に呑まれるような大きな拍手。あれだけ敵意を向けた六代が満面の笑顔で迎えてくださったことに嬉しくもあり引け目を感じる。繁昌亭の舞台上に2人が居るといふこと以外に余計な言葉は要らないとも感じた。暴挙ののち約4年半にわたり対峙する形となったがこれで良かったと思う。最後に師匠に深々と覆したことに詫言式を根底から覆したことに詫言式を入れた瞬間、師匠が両手を握ってくださった。間を取り持ってくださった吉本興業さま、何より六代桂文枝師匠にこの上ない感謝を申し上げる。

まめだの無口なたぬき

「朝、保育所に子供を送りに行く時、途中に牛井屋さんがある。送り帰りにたまに朝定食を食べるが毎日はいらない。家で帰ってごはん

を炊けば安上がりだ。なるべく五百円で抑えたいが焼魚定食やWハムエッグ定食、牛小鉢定食と目移りする。この前パソコンを買った時もそうだが店員さんに説明を聞いているとだんだんいいのが欲しくなる。納豆定食は四百三十円、悩む。今日は、いちもん新聞も書出し、思い切っただけにたくさせてもらいます。」

「文也の分野」第109回

日本アメフト部が薬物事件で解散とか自民党が裏金で国会解散だとか。今時不祥事は命取りです。我々も他人事やなく不祥事起こしたら名門落語家一門かて解散させられるかもしれせん。例えばですよある一門のベテラン師匠の風俗通いのエロ話があまりにも卑猥でそれを聞いた若手がもう耐えられんと週刊文春リークしたら……あつあかんあかんこれ例え話やなくて実話やつたわ。ほなこれはどやろ。例えばあるベテラン師匠が「うちの弟子が他の一門の若手に○○された」と真偽の定かでないことで一方的に裁判沙汰に……あかんあかんこれもタブーや。そやこれやつたらええかな。コロナで仕事がなくなつたあるベテランが生活のため警備員のアルバイトをしてたらとても優秀で落語家やめて社員にと勧められて落語を捨てるかどうか悩んで……あかんこれでも生々しいわ。そや落語家以外やつたらええんか。例えばある協会の職員が同僚と一緒に職場にいるだけで長期病欠してしまふほどの深刻な犬猿の仲で……ピッピッ

ピッー!! すんませんこれもリアルすぎて引いてしまいます。そや異業種やったらええんや、大阪万博の経費が約2倍の2350億円になってその上800億円以上追加、各国次々不参加、建物立たず、子供にただ券配って親を引く張るちゅうせこい算段すな!!今からでも遅くないから即中止せえ!!といくら叩かれてもやめへんのはなんせ大阪の「いしん」がかかってますって……あつこれも実話やつたわチャンチャン。

文喬のぶんきょうツツク

去年、嘶家五十周年を迎えた。

以前、松任谷由美さんがデビュー五十周年記念リサイタルを全国各地で開催したというのをテレビで見たことがある。「僕も五十周年になるねんけど、いろんなところで独演会を開きたいな」と嫁はんに云うと「あほかいな、向こうはメジャー中のメジャーな歌手やで、あんたはマイナー中のマイナーな落語家やんか、一緒にしてどないすんねん」と一蹴された。

そやけど、生まれ育った神戸と大阪だけは独演会をしたいと思ひ、府大落研OB会に連絡すると同期の一人が「俺の地元は広島でもせえへんか」と声をかけてくれた。嫁はんに「四か所で独演会をするようになったわ」と云うたら「そんなぎょうさんして、お客さんがげえへんかったら、格好悪いで、やめとき」と言われたが、思い切って広島から始まって、岡

山、神戸の喜楽館、最後は繁昌亭で独演会を開催した。『案ずるより産むが易し』でどこも大入り満員で盛況のうちに幕を閉じるこゝが出来た。各会場ともランをはじめ、たくさんの花束を持って来てくれた。折角くれた花やからと家を持って帰った。家中、花だらけ。なんか家が明るくなった。

ところが、花はいづれ枯れてしまふ。寂しいでんな。誰かが云うてました。「やっぱり、花東より札東やで」と。僕は決してそんなこと思っていないよ、ちよつとしか。

枝女太の「和」のころ

日本人は和を重んじるので争いごとを嫌う。しかし和だけが争いを嫌う理由ではありません。争い事は必ず勝者と敗者を生みます。これが戦争なら敗れるということは死を意味します。恨みを抱いて死ぬと怨霊になり祟る。これが日本人の根源的な宗教観です。祟るとどうなるか。災害が起こったり疾病が流行ったり。怨霊神が祟るとお祀りをして鎮めなければならぬ。それより祟らないようにするのが一番。そうするには争わない、戦わない、そうすれば勝者も敗者もなく、祟ることもない。

最近でこそ減りましたが一時学校の運動会で順位を決めないということが流行りました。それが差別を生まないとか現代風とか謂われましたが、当事者も意識しないとどこで日本人の宗教観が現れた代表例でした。時代は変わっても受け継いだ

DNAというのか感性というものは簡単には変わらないんですね。

文太のむかし噺 し・十三の渡し奇談

(その二)

次郎兵衛はんが亡くなったと聞き若い連中が船着き場に行くとき、たまたま次郎兵衛はんにご遺体が、そつくりのご遺体が、棺桶に入れ、

あとは出棺のみ。



「送っていただきましてありがとうさんで。うちは向こうの、

鯨幕、シキミ、忌み札……だいたい戻りました」

と次郎兵衛はん。

「誰や、いま時分」

「あいつ、セミか。どないした」

「次郎兵衛はんが戻ってきたで！」

「私に亡き骸もないのによう葬り出すな……」

「それがおまんねん」

(つづく)

文昇問題 その一

米国に住んでいる甥っ子が、彼女を連れて2週間ほど日本へ帰ってきた。彼女が初めての日本なので、実家の兵庫県猪名川町を拠点に、東京、倉敷、等々、あちこち訪れていた。散財だが、円安のおかげなのか、こたえていない様だ。彼女が日本でしたい事の一つに、軽自動車を購入する。軽は日本独特の規格なので、米国ではレア物。「CUTE」だそう。馬鹿にされている風でもない。我が家の車を軽にしたばかりだと伝えると、英語が理解できずとも分かるくらい熱い視線を送ってきた。後日、大阪まで出て来てもらい、近所のショッピングセンターでランチ。甥は豚カツ、彼女は純和風のうどんを食べた。円安の恩恵を受けていないジリ貧の桂文昇が御馳走した。昼食後、広大な駐車場をグルッと円を描くように運転してもらった。安心して同乗できた。安心して、円を一周。これも、円安か!

「あやめの女王様とお呼び」

新年明けて辰年、私は年女でございませ。それも5回目、このことはいエース カンレキ!

我が師匠の還暦祝いの会の時に師匠が「還暦還暦で年寄りみたい言われんの嫌なんや」と言わはんの聞いて「年寄りやのに何言うてはんにやろ」思ってたけど、いざ自分がその年になると声を大にして叫びたい。年寄りちゃうわ!

けど、やっぱり記念すべき年であります。94年に「あやめ」になった私は、生誕60周年、あやめ30周年なんです!これは何かやらねばと、毎年恒例の3月3日繁昌亭おひなまつりを借り受けまして「あやめカンレキ感謝祭」を開催します。還暦の時は小豆の配り物をするといひと聞いたので、皆様に何か振る舞わせていただきます。

そしてやっぱり赤い衣装です。ね。けど赤い着物は普段から着てるしなあ。2月にタイに行くので赤い何か、繁昌亭ドレスコードギリギリのを仕入れて来ます。乞御期待!

ぼーしの新婚日記

次女が、都内で働く学生時代の友だちに会い、あちらで公演中のミュージカルを観てくると、安価で行ける夜行バスで東京に向かうと家を出た。

次女から「梅田です、今から乗ります、このバスです」と夜行バスの写真が家族LINEで送られて来た。すると妻が突然「あの子、間違えてバスに乗ったわ!」と騒ぎ出した。私が「どうしたんや?」と聞くと「この写真のバスに(さいたま新都心)行きと書いてる、アホや、埼玉行のバスに乗ってる!」と至極興奮している。次女がバスの写真と一緒に送って来たバスの行程表には(三宮→大阪→横浜→東京→さいたま)と記されていたので、私が「東京駅経由で、埼玉行きのバスや」と言うると妻は「えっ、埼玉で東京の方

なん？」埼玉がどこにあるかも知らない者が人の命にかかわる調剤をしているとは、と恐ろしい気がした。

数日後、映画「翔んで埼玉」を観て妻は大笑いをしていた。埼玉がどこにあるかを知らなくとも楽しめる映画でよかった。

楽珍日記

「トラの歩き方はこうすんねんでえ：顔と手への向きが反対やでえ：こう：うんうん：ええなあ……もつとお尻を突き出そうかあ……。」

「はあい♡ 楽珍師匠！こうですかあ……♡ 目の前で○○48（吉本興業のアイドルユニット）の○○ちゃんが一生懸命に古典落語の『動物園』のトラの歩き方の稽古をしている○○ちゃんはグラビアアイドルなので、若いし可愛らし、スタイルも抜群でファッションセンスもいい！タンクトップにショートパンツ姿でトラの格好をして四つん這いになると胸のふくらみが凄い！「ああ、わしゃあ、幸せやなあ。」と、思いながら、胸の谷間やお尻をずうずうと、見ながら何回もトラのしぐさの稽古を続けさせた。

○○ちゃんが、他のメンバーに「楽珍師匠ってどうしてだか、私にトラの稽古ばかりさせるんですう。」とこぼしていたらしい。そんな事を知らない私がラジオで、「いやあ〜最近楽しみな事ができまして(๑)女の子との落語の稽古が楽しくてもう(๑)トラのしぐさが……(ペラペラ)」、と喋りまくった。

どうもそれを聞いてた他のメンバーが告げ口をしたらしい。次の日、稽古に現れた○○ちゃんを見て、びっくりした。

首まであるとつくりのセーターにダボダボの大きなGパン：。（これやったらトラの稽古の意味が無いなあ……。）と私。

仕方が無いので次回から、古典落語の「初天神」のみつをねぶるしぐさを集中的に演らせようかと思ってます。

古典落語は奥が深い(๑)

「枝會丸のつれもていこり」

師匠五代目文枝が生涯最後に創作したご存じ「熊野詣」。その長きにわたる制作期間をずつと傍らで案内して下さった方が、和歌山県新宮市在住の鈴木さん、落語をこよなく愛する方で現在は「熊野家三九郎」という芸名を名乗り地元で活躍しています。僕も、熊野詣を演じるに時は随分と制作秘話や師匠自らこのネタに掛ける思いをお聞きしました。先日、再会して改めて熊野と師匠の絆を感じました。天国に行かれて一八年。まだ温もりを感じる事が出来ます。

そして今回ご命日の三月十二日繁昌亭で僕自身初めての独演会をします。入門してから出来の悪い弟子ですが、この「熊野詣」を演じます。昨年主宰である文昇兄さんのパトンをしっかりと繋いでいかなければ！ぜひご覧あて！

ぼんぼ娘ピーのポンポコナー

一度挑戦してみたいことの一つ

に、断捨離がある。不要なものを捨てることよって生活をミニマムにし、狭い部屋でも、快適に過ごすというのは、整理整頓が、苦手な私からしたら一番憧れる生活だ。ただ言い換えれば自分のような狭小住宅に、住む人間は、ミニマリフトになる以外、選択肢はないのに、ミニマリフトにもなれず、かといって広い家に住む経済力もなく、ただただ狭い上に片付いてない部屋で生活をしている状態で、本当に情けない。その点、うちの師匠は、素晴らしい。広い自宅に住んでいるのに、ミニマリフトになる必要がないのに、時代の先をいくミニマリフトとして、

東京に泊まる時は、一拍3000円のカプセルホテルに泊まり、103キロの巨体を収納して寝ている。本当に、素晴らしい師匠だ。ただ修業の足りない私は、カプセルより、普通のホテルに泊まりたい。

文福のいやんストーリー

へ博多の空に、ひらひらとく力士のぼりが、はためいてく玄界灘にテンテンと、ひびくうれしい、ふれ太鼓くそれよりおいしい、めんたいこくあ〜ドスコイ〜。昨年の一年納めの九州場所も生観戦し、一年、六場所で大相撲の本場所に顔を出しました。たのまれもせんに……。その博多の土俵で、見事、二度目の優勝を飾った大関霧島関。今年の四月に、定年を迎える陸奥親方（元大関霧島）の最後のご当所での快挙、花は霧島！！親孝行！！

さて、この新聞は、四月末まで、各地で目にとまると思います。その間初場所、春場所と、二場所大相撲が開催されますので、番付が、どう変わるかわくわくドキドキ、毎週火曜配信の超限定マスターバージョン配信、ユーチューブ「たぬき小屋から福もろ亭」でも相撲断をどんどん発信、貴重な情報もお届けします。この初場所は、霧島関の綱とり、関脇琴ノ若関の大関とりが、かかっています。両人大願成就しますと、三月の大関、春場所は新横綱霧島、新大関琴ノ若改め琴桜！！わあ〜浪花の春は、どえらい事になります！！阿武松部屋の十両勇磨関も、何と

しても一月の初場所は勝越して、枚方出身としてご当所で化粧まわりの晴れ姿たのんまつせ！！九州で幕下十五枚格でデビューして見事五勝二敗の一昨年日体大での学生横綱モンゴルのチヨイズルスレンあらため阿武剋（おおのかつ）も初場所の星によって春は新十両なら又、もりあがりまんがな！！あ〜わくわくドキドキ！！

それに、くらべて、地元大阪でもまったくもりあがってへんのが、関西万博。へ愛がないのに、アイアールばくちですったその金を、福祉や医療にまわすというカジノとり方ちがつてる〜最大級のムダ使い〜清水寺と同じこと、伝統工法といいながら〜ポルトやクギをうちつけて今だに丸くおさまらぬ〜あんなリングはいりませ〜ん。元はうめたてゴミの島、名前は夢洲というけれど〜悪夢になったらどないしょ〜あ〜ドスコイ〜。

となりのUSJの三倍か四倍

の人々が毎日来るて！！んなアホなく無理矢理、修学旅行をもつて来るて〜 学生さんがかわいそう。それやったら修学旅行は天満天神繁昌亭や神戸新開地喜楽館に来てちょうだい！！

編集後記

いつも、お心に、おかけ頂き、ありがとうございます。今年も「いちもん新聞」ご愛読、よろしゅうお願い致します。この号は四月末まで、あちこちで配布させていただきます。

さて、落語界にもいろんな賞がありますが、昨年は繁昌亭若手グランプリに、ごこば門下のそうば師、NHK新人落語大賞に、米団治門下の慶治朗師、第一回喜楽館アワード優勝は雀三郎門下の雀太師、繁昌亭大賞は、吉朝門下の吉坊師、新人賞は米団治門下の米輝師と、いずれも、人間国宝米朝師匠のご一門。ま

ずはおめでと〜ございます。しかし、我が五代目文枝一門もがんばらなあきません。賞といつても春は花粉症、夏は熱中症で言うてる場合やおまへんなあトホホ。まあ健康に注意して舞台に、穴をあけないよう皆勤賞なあほな！！かつて、おやじ（五代目文枝）が素人名人会の審査員の時のフレーズ「カントーショウヤーつとくんははれ〜」なつかしいなあ〜よっしゃ芸に精進して敢闘賞もらお！！てなんのこっちゃ！！どうか皆さん、ご自愛下さい。

(文福)